

# すみながし

No 1



1957.9

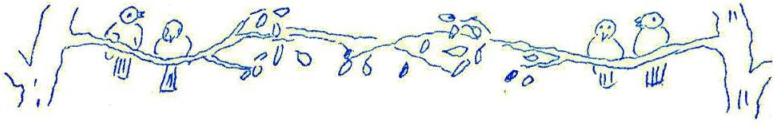
川内昆虫同好会

## 目次

発刊によせて	田代誠道	2
発刊に当りて	角園栄男	4
根強く丹り育てまじょう。	田中二夫	5
更に前進を祈る。	吉見虎雄	6
鹿児島県の蝶。	佐竹 新	8
川内市及びその周辺の蝶相。	佐竹 新	12
小学校理科教育と昆虫教材について。	永田幸吉	16
蝶の生態	阪	23
昆虫展雑記	佐竹 新	24
雑記	有村松男	27
トンボ採集目録	寺田順光	28
川内昆虫同好会の歩み	角園栄男	30
紫尾山昆虫採集行	坂口邦彦	33
編集後記	永田生	38

### 誌名「スミナガシ」について。

川内市可愛山陵や清水丘に産している スミナガシを誌名とした。この蝶は熱帯地方から鹿児島県を経て渡来我国に土着したタテハチョウ科の蝶でカツマガスリに似た翅をはばたかせて旋回し飛翔中のものは迅速で捕えにくい。母蝶はアワブキ、ヤマビワ等に産卵、年2回5月7月に発生する。



## 発刊によせて

田代謙三

現代の科学の進歩は 全く驚異に値し 吾々が夢の  
奇界のものとして、現実に想像すらできなかつたこと  
が、次々と発見発明されて身近かに実用化されつつあ  
る。科学教育という事は、時と処を問わず重要な問題  
であるが、今我が国の現状と将来を思う時、科学教育  
の振興と云うことは 国民教育上喫緊の課題である。

この時に当り 毎日新聞社川内通信部佐竹氏を中心  
とした昆虫同好会が生まれ、理科教育の進展を推進し  
ようとしてくださることは、まことに感謝にたえない。

理科教育のねらいとするところは、科学する心 科  
学的にものを考え処理する態度、自然に深い関心を持  
ち、自然に対する目を開くということであろう。

夏休みの一日、佐竹所外同好会員の先生、生徒の一  
行に加わり、紫尾山に採集に出かけた。とっとも趣味  
を持つ方々の集まりであるからといえはそれまでであ  
るが、その真摯的な研究態度には全く頭がさがるもの  
を深く感じた。蝶を探す輝く眼、すべてを忘れて追  
かけまわす姿、捕えた蝶についての語らい、ていねい  
な処理、……此の間に蝶の飛び方の色々、住む場所、気象



の関係、活動時間等々教室では学び得ない観察ができて  
収得の内容も豊かなものがあつたと思われる。こうした研究の  
成果が九月六・七・八・九日の富士屋デパートにおける昆虫  
展ととなり、理科学習の研究態度へも発展していくであらう  
と考へて満腔の感謝を捧げるものである。

去る日 某新聞で「昆虫採集はデパートへ」「よく売れる標本」という見出しで モンシロチョウ アブラゼミなどありふれたものまで売り出し売上げも上々  
という記事を見た。これはまず大都市の宿題のありかたに  
先ず問題があると思われるが、私は今これに対する批判を  
試みようとするものではない。

「自ら進んで、自らの手で採集し処理する」子供は子供なりに  
発達段階に即した研究態度でいく所に教育的な尊いもの  
があるということを強調したいのである。

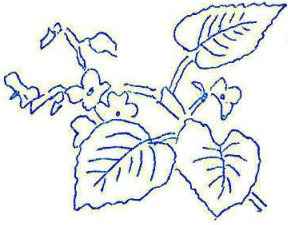
五月に誕生してわずか5ヶ月、かくまで育てあげた佐竹氏  
に対し衷心感謝申し上げると共に、この同好会が健全なる姿  
において成長されることを心から祈つて止まない。

了

(筆者は 川内市教育長)







発 刊 に 当 り て

角 園 榮 男

自然に親しみ、自然を愛し、趣味の豊かな人になりたい。これは いつも私が考えて努力していることですが、常にいろいろの問題に自分の体をとりにかこまれてしまつて、なかなかゆとりが出てこないものです。特に理科の学習は、自然のままの姿をよく観察して、生きた勉強をしていくことからはじまります。

幸いに 今年の五月十九日に私たちの川内市に昆虫同好会が生まれ、昆虫の生態の観察研究 採集 標本の作製 標本の交換等のたのしい生きた勉強のできるようになったことは、私の心からの長びであり、会員の皆さんと共に、川内市の大きなほこりと感じているところです。

発足以来 主として「今ヨウ」の勉強からはじめてきましたが、採集会の度を重ねると共に、新しい勉強が次から次に出て来て、長びに漲る会員の皆さんの顔を見る時、何ともいえぬ力強さを覚えます。いよいよ夏期の採集会を終えて、第一回の標本展覧会を盛大に終了いたしました。私たちはこの同好会のために心からの援助と指導を与えて下さった 川内市 川内市教育委員会 川内市理科教育協議会 毎日新聞社の

各先生方に深く感謝の意を捧げたいと思います。

そして 私たちの研究のためにいさぎよくその貴い生命を提供してくれた昆虫の美しい装いが永遠に保存され 貴重な学界の標本としての価値をとどめるように努力しなければならぬと考えます。

今後会員がお互いに一層協力しあって力強い歩みをつづけていきたいと思います。 了

(川内昆虫同好会会長 北中)

— ○○○ ————— ○○○ —————

 根強く守り育てましょう

田 中 = 夫

我々の心の中には「昆虫の研究をしてみたい。美しい標本を作ってみたい、虫の生態を研究してみたい。」と思う自然の欲望と、又研究しなくともちっともかまわない、却って夏の暑い時に捕虫網をふりまわして汗をかきながら山野を走りまわって馬鹿らしい昼寝でもした方がずっとよいと思う二つの心があります。そしてこの二つの欲望はどれがよいともわるいとも云えない、どうにもできなれ私共の心の動きであります。

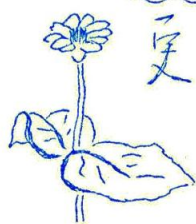
その中で「馬鹿らしい」と思う心をおさえつけて「研究したい、標本が作りたい、虫の生態を調べたい、

そして そのことが楽しいと云う心を大事に守り  
育て、その守り育てる心を大事にする人々がお互いに  
集まって造りたてられたものが昆虫同好会であると私  
は思います。このようにして昆虫同好会は、昆虫研究  
の意慾にもえた我々の同好の士が、心をふるいたたせ  
て造りたてた会です。造りたてた会は、雨が降ったり  
風が吹いたりする自然の現象や 又 おなかがすいた  
ので飯がくいたりと、のどがかわいたから水がのみ  
たいと云うような生理的現象とちがいます。造りた  
てられた会です。

そこで 昆虫同好会が造りたてられましても、研究  
したいと云う心がまけて、馬鹿らしいと思う心が勝と  
うとする時があります。これは大へん根強いものです。  
馬鹿らしいと思う心を常におさえ、研究する心を常  
に守り育ててすまなければならないものと思います。

造りたてられた会ですから、我々が守り育てていか  
なければ減じ衰える一方です。同好会の発展とよい成  
果を希望して止みません。 了

(川内昆虫同好会顧問 川内市理科教育協議会長)



更に前進を祈る

まふを礎

どんな事でも 一つの事を計画し それを結実させ



ることは 並大抵のことではない。人知れぬ苦心と努力が必要。骨身惜まらず走りまわらねばならぬし、人の協力も得なければならぬ。燃えるような情熱がそれを解決し、やがて成就の喜びを味わうこととできる。

昆虫同好会は発足以来、人の組み合わせの宜しきを得て、誠に目をみはらせるような活動が続けて来たと思う。そして、これからも更に更に前進をつづけるものと確信している。

展示会に並べられた美しい標本の前に立っていると、何だかそれを作った人の逞しい研究意欲の波がひたひたとおしよせまくるような心地さえた。

美しい蝶が 大自然の中にその天寿を全うするのともよからうが、翔の中に まばゆいばかりの美しい翅をひろげて 見る人毎に生物の世界の神秘性に胸をうたせるのも、蝶にとっては 或いは本懐であるかも知れない。

一年生は一年生なりに 三年生は三年生なりに、その学年に応じて、こうした労作を通じて、科学への興味と関心の芽生えを成長させていくことは、誠にたのしいことである。

昆虫同好会が、今後更にその研究のあり方に深みを加えて 理科教育の本質的立場から、一般と価値高き成果をおさめ得るような歩みをつづけることを、心から祈って止まないものである。了

(川内市昆虫同好会顧問 市教委学校教育課長)

## 鹿 児 島 県 の 蝶

鹿児島県は昆虫学上、欧亚大陸を含めた旧北区に属している。したがって ここに見られる蝶相は、北方系の蝶と東洋熱帯区系の蝶とがその主体となり、遠く氷河時代の遺物とみられるものがこれに加わっている。このため ほとんどの蝶は本州、四国と共通した分布を示しているが、特に鹿児島県は本土最南端に位置しているため、奄美大島、種ヶ島などを経て日本に帰化上着する東洋熱帯区系の蝶の上陸基地となる外 風蝶、迷蝶などが数多く発見される意味でも興味深いものがあるといえよう。

県内では ミドリシジミ属の美蝶が生息する霧島や熱帯系蝶の飛来する佐多岬など全国的にも“蝶の宝庫”として有名である。県下の蝶として確認されたものは、次の112種に上っている。

### 〔セセリチョウ科〕

- |            |            |
|------------|------------|
| ミヤマセセリ     | ○ダイミョウセセリ  |
| ○アオバセセリ    | キバネセセリ     |
| ギンイチモンジセセリ | ○ホソバセセリ    |
| ○ヒメキマダラセセリ | ○キマダラセセリ   |
| ○コチャバネセセリ  | ○オオチャバネセセリ |
| ○チャバネセセリ   | ミヤマチャバネセセリ |
| ○イチモンジセセリ  | ○クロセセリ     |

オオシロモンセセリ

以上15種

〔アゲハチョウ科〕

○ジャコウアゲハ

○アオスジアゲハ

○ミカドアゲハ

○キアゲハ

○アゲハ

○オナガアゲハ

○クロアゲハ

○ナガサキアゲハ

○モンキアゲハ

○カラスアゲハ

ミヤマカラスアゲハ

シロオビアゲハ

カバシタアゲハ (迷蝶?)

以上13種

〔シロチョウ科〕

○キチョウ

ツマグロキチョウ

○モンキチョウ

ウスキシロチョウ (迷蝶?)

○ツマキチョウ

ツマベニチョウ

○スジグロチョウ

メスジロキチョウ (迷蝶?)

○モンシロチョウ

以上9種

〔シジミチョウ科〕

○ウラギンシジミ

○ムラサキシジミ

ルーミスシジミ

○ムラサキツバメ

ミズイロオナガシジミ

ウスイロオナガシジミ

ハヤシミドリシジミ

フジミドリシジミ

メスアカミドリシジミ

ヒサマツミドリシジミ

キリシマミドリシジミ

トラフシジミ

カラスシジミ

コツバメ

○ベニシジミ

ゴイシシジミ



- |           |             |
|-----------|-------------|
| ○ウラナミシジミ  | アマミウラナミシジミ  |
| ルリウラナミシジミ | ○ヤマトシジミ     |
| シルビアシジミ   | ○ルリシジミ      |
| スギタニルリシジミ | ヤクシマルリシジミ   |
| ○サツマシジミ   | タッパンルリシジミ   |
| ○ツバメシジミ   | ○タイワンツバメシジミ |
| オジロシジミ    | クロシジミ       |

以上30種

〔テングチョウ科〕

- テングチョウ 1種のみ

〔マダラチョウ科〕

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ○アサギマダラ          | スジグロカバマダラ(迷蝶?) |
| カバマダラ(迷蝶)        | ○コモンアサギマダラ(迷蝶) |
| ウスコモンアサギマダラ(迷蝶)  |                |
| リュウキュウアサギマダラ(迷蝶) |                |
| オオゴマダラ(迷蝶)       | 以上7種           |

〔タテハチョウ科〕

- |               |              |
|---------------|--------------|
| ○ミドリヒョウモン     | ○メスグロヒョウモン   |
| ○ウラギンヒョウモン    | ○オオウラギンヒョウモン |
| ○ツマグロヒョウモン    | ○ウラギンスジヒョウモン |
| ○イチモンジチョウ     | ○コミスジ        |
| オオウラギンスジヒョウモン |              |
| リュウキュウミスジ(迷蝶) | サカハチチョウ      |
| ○キタテハ         | ○ルリタテハ       |

- |              |              |
|--------------|--------------|
| ヒオドシチヨウ      | ○ヒメアカタテハ     |
| ○アカタテハ       | アオタテハモドキ(迷蝶) |
| ○タテハモドキ(迷蝶)  | メスマカムラサキ(迷蝶) |
| ○イシガキチヨウ     | ○スミナガシ       |
| ○コムラサキ       | ○クロコムラサキ     |
| ○ゴマダラチヨウ     | オオムラサキ       |
| アカホシゴマダラ(迷蝶) | イワサキコノハ(迷蝶)  |

以上27種

〔ジャノメチヨウ科〕

- |             |          |
|-------------|----------|
| ○ヒメウラナミジャノメ | ウラナミジャノメ |
| ジャノメチヨウ     | ○クロヒカゲ   |
| クロヒカゲモドキ    | ○キマダラヒカゲ |
| ○ヒメジャノメ     | ○コジャノメ   |
| ○ウスイロコノマチヨウ | クロコノマチヨウ |

以上10種

この中の 印をつけたものは、川内市及びその周辺（高城村を含む）地帯で確認されたもので、これらの外 キマダラモドキ ヒカゲチヨウ など いずれも全県的には未確認だが、分布の可能性ありとされている。

川内市昆虫同好会 顧問

～付記～

佐 竹 新 記

本記は 横山光夫氏著「日本蝶類図鑑」(保育社刊)及び 福田晴夫氏著「鹿児島県の蝶を参考とした。

# 川内市及び その周辺の蝶相

川内市及び高城村で確認された蝶は、別述（鹿児島県の蝶）のように59種に上っているが、冠嶽及び紫尾山をふくめると68種に上り、今後の採集でこの数は更にふえるものと思われる。川内市及びその周辺の蝶相は、これまで県昆虫学会に対する報告がほとんどなかったため明らかでなかったが、川内市昆虫同好会の発足によって、ようやくこれが明らかにされつつある。川内市及びその周辺の蝶の概観は次の通りである。

☆共通種（市及びその周辺のたいていの所で発見されるもの。）

モンシロチョウ	キチョウ
ツマグロキチョウ	ダイミョウセセリ
アオバセセリ	ジャコウアゲハ
アオスジアゲハ	アゲハ
クロアゲハ	ナガサキアゲハ
モンキアゲハ	ムラサキシジミ
ベニシジミ	ヤマトシジミ
ルリシジミ	ツバメシジミ
ツマグロヒョウモン	イチモンジチョウ
コミスジ	キタテハ



クロコムラサキ

ヒメウラナミジヤノメ

クロセセリ

ヒメジヤノメ

ゴマダラチヨウ

コムラサキ

の26種による。

#### ▲ 可愛山陵（神亀山一帯）

新参道附近及び西側雑木林内に特に多く発見されるのは スミナガシ クロセセリ アオバセセリ ジャフウアゲハ アオスジアゲハ などで 陵頂社殿裏附近には イシガキチヨウ オナガアゲハ モンキアゲハ クロアゲハ カラスアゲハ キマダラヒカゲ などが生息しているのが見受けられる。又 アサギマダラ ウラギンシジミが何体数は少ないながら丘陵一帯で散見される。

#### ▲ 清水ヶ丘

市内では山陵につぐ蝶の多産地で 特に万里紅裏から火カ発電前裏の一帯にかけて ムラサキツバメの群落があることは注目されよう。

ここでは特にスミナガシ キアゲハ スジグロチヨウ ミドリヒョウモン などが確認され アオバセセリ アサギマダラ モンキチヨウ キマダラヒカゲ クロコノマチヨウ ルリタテハも生息し本年六月 コモンアサギマダラ（迷蝶）も1頭捕獲された。 可愛山陵及び清水ヶ丘は市中心の近郊としては実に良い採集地であるう。

#### ▲ 日笠山及び寺山

寺山には ツマグロキチヨウの群落があるほか特にツマグロヒヨウモンが多産している。又日笠山では特にアオバセセリ ミヤマチャバネセセリ ムラサキツバメが散見されている。

#### ▲ 久見崎

海岸地帯で少ないながら ウラギンシジミが散見され、附近一帯では特に ジャコウアゲハが饒産している。又 アサギマダラも捕獲されている。

#### ▲ 日暮丘

ゴマダラチヨウ 及び ツマグロヒヨウモンが多数生息している。

#### ▲ 高城村

麓地区では ホソバセセリ コチャバネセセリ スミナガシ メスグロヒヨウモンが確認された。ムラサキシジミ ムラサキツバメも生息している。又麦の浦では1昨年8月 タテハモドキ(迷蝶)が2頭発見され 内1頭が捕獲されている。

#### ▲ 冠嶽

ここに産する蝶は 市近郊としては 唯一の山地性をもち ミヤマカラスアゲハ ウラギンシジミ ミヤマチャバネセセリ イシガキチヨウ

ルリタテハ コチャバネセセリ ヒメキマダラセ  
セリが確認されている。

#### ▲ 隈之城地区

低山地帯では ツマグロヒョウモン キマダラヒ  
クゲが確認されている。

#### ▲ 紫尾山

市周辺では 最大の蝶の宝庫である。

イシガキチョウ アサギマダラは個体数が多く、  
特に ルーミスシジミ キリシマミドリシジミが  
生息しているという事実は特筆に値する。

ミヤマカラスアゲハ ルリタテハ アオバセセリ  
又少ないながら テングチョウが散見されている。  
サカハチチョウもここで捕獲された。

この山には44種の多彩な蝶が生息していること  
も判明した。

又 日本アルプスの珍蝶として有名な オオイチ  
モンジに酷似した蝶を採集隊員が目撃したが捕獲  
出来ず、遂に確認されなかったが、これは今後最  
大の課題と云えよう。

- ▲ なお他の地区 水引地区 永利の山岳、寄田の山  
吉野山東校区等 この地方でも残された地方が多  
く 今後の仕事の1つとなるであろう。

調査 川内市昆虫同好会員 1957.  
記述 佐 竹 新.



小	学	校	理	科	教	育	と
			昆	虫	教	材	に
						つ	い
						て	

永田幸吉

小学校の理科教育の部門に昆虫の教材がどの位で  
くるであろうか。又その昆虫教材が小学校理科におい  
てどのような意義を持ってあらうか。この二つの問題  
の内、前者は教科書を一見する時その大要はわかるの  
であるが、後者は理科教育についての考え方、或いは  
論者の識見によつて異なるものがあるであらう。さ  
ま川内昆虫同好会の第一号機関誌発刊に当つて、この二  
つの問題について所見を記してみたいと思う。

はじめにその学年に又教科書に提出された昆虫教材  
が理科教育の中で占める意義について考えてみよう。  
理科教育のほとんどすべての教材がそうであるように、  
昆虫教材の第一の目的は 自然の環境について興味を  
広げるといふことであらう。われわれの住む自然環境  
が如何に巧みに形成されているかと云うことを念頭  
におきながら研究させ 飼育させ 観察させ 或いは採  
集させることは非常に重要な目的の一つであらう。第  
二は 自然の美しさとか、自然の調和や恩恵を知ると  
云うことであらう。われわれは極く身近かな自然を  
見のがしやすいし、又その美しさ、恩恵を気付かないこ  
とが多い。昆虫教材を取り扱う中でそれに関連する自

然の姿を正しくつかみとると云うことは忘れてはならない一面であろう。以上の2つは いわゆる目的的地位から見たものであるが、次に科学的態度の養成と云う立場からみるならば、昆虫を採集し研究することによって、どんな蝶がどんな時刻に、どんな樹液を或いはどんな花の蜜を吸りにきていたとか、この虫のいる所には、必ずこのような条件があり、その条件は何を満たすものであるかと云うような事実を事実としてとらえ、その次の段階へと考察をすすめていくと云う態度が養成されなければならない。勿論このようなことはひとり昆虫教材のみの独壇場ではないが、化学教材、物理教材とちがって、自然をそのほとんどの対象とする生物教材にはその文の特色がなければならないのではなからうか。アブラナにくるモンシロチョウの学習は黒板とテキストのみでは出来ない。事物現象をとらえて学習させた。

何もわれわれは子供を昆虫学者に仕立てようとは思わない。しかし昆虫教材の学習を通じてのみ得られる何物かがあるはずである。唯自分で自分に希望するのであるが、昆虫教材のどんな小さな虫の一匹でも——外の教材でもそうであろうが——それを学習させることによって新しい知識の一片でも、或いは科学的方法の一片断片でも必ず子供が習得するように努力して行きたい。エドウィン・ウェイ・テール (Edwin Way

scale) が「一歩外に出れば、思いもかけない生物の群がるジャングルが、あなたの発見を待っている」と云うことばを“わが裏庭の探険旅行”の中にかいている。又「昆虫のホームー」といえるあのフランスのアンリ・ファブール (Henri Fabre) は実に半世紀もの間自分の垣にめぐらされた小さな場所で見たいろいろなものをかきとめたものである。今までに世界の科学者が記録した昆虫の種類は90万種に及んでおり、その中で害虫はわりに少なく有益な昆虫が多いと云っている。それらのすべてが非常に興味深いものばかりである。子供がもって来たカブトムシを見て「カブトムシね」と云う一言ですまざず「何をたべているのでしょうかね」「どんなところにいましたか」「おすどめすとはどんなところがちがうでしょうね」「カブトムシに引かしてみても「ほらね カブトムシはこんなに力が強いのですよ。カブトムシは世界で一番力の強い動物の一つに数えられており、自分の体重の850倍もの重さをささえることができますよ」などと云うことなどから「カブトムシのなかまにはこのほかどんなものがあるでしょうかね」と発展していくなれば、そこに自ら昆虫教材を通じたの又これ特有の理科教育がおしすすめられていくのではなからうか。

次に小学校の理科に昆虫教材としてどの程度出まくるかという問題である。これを学年別に順を追って見



て見よう。(教科書は大日本 理科の虫界。東書の新  
しい理科の二種)

(これは单元別に又学習目的別に整理してかくの  
がよいのであるが 長くなるので種名のみとする。)

## 一 年

モンシロチョウ	キチョウ	クロアゲハ	
ヒカゲチョウ	セセリチョウ	アカトンボ	
ボムギワラトンボ	ギンヤンマ		
オニヤンマ	トンボ	アフラゼミ	
ニイニイゼミ	ミンミンゼミ	アキアカ	
ネカマギリ	イナゴ	コオロギ	
クツワムシ	バッタ	ウマオイ	マ
ツムシ	スズムシ	キリギリス	ト
ノサマバッタ	シヨウリヨウバッタ		ハ
チ	アブ	ホタル	アシナガバチ
カナブン	アリ		

## 二 年

モンシロチョウ	キチョウ	シジミチョウ	
ウ	トモエガ	スズメガ	シオカラ
トンボ	ギンヤンマ	ハグロトンボ	
イトトンボ	ヒグラシ	アフラゼミ	
ツクツクボウシ	ハルゼミ	カミキリムシ	
シ	ニイニイゼミ	カブトムシ	早

テントウムシ	ウリハムシ	ミズスマシ	
ミズカマキリ	ゲンゴロウ	カキアカネ	
コオロギ♂♀	トノサマバツタ	マツムシ	
スズムシ	ミノムシ	ミツバチ	アシ
ナガバチの巣	アゲハチ	ヨウのさなぎ	ト
ンボの幼虫	コガネムシの幼虫	カミキリ	
ムシの幼虫	オオハナアブ		

### 三 年

モンシロチョウ	アオスジアゲハ	キアゲ	
ハ	カラスアゲハ	シジミチョウ	ゲ
ンゴロウ	アメンボウ	ミズカマキリ	
タガメ	タイコウチ	ミズスマシ	コ
オイムシ	マツモムシ	ヤゴ	ミンミ
ンゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	
クマゼミ	スズメガ	イラガ	オビカ
レハ	ミノムシガ	イエバエ	アカイ
エカ	シラミ	ノミ	ハマダラカ
ゴキブリ	アリジゴク	クワカミキリ	
カブトムシ	タマムシ	エンマコオロギ♂♀	
♀	イナゴ	ウマオイ	キリギリス
クツワムシ	トノサマバツタ	ヒタラアブ	
ミツバチ	アシナガバチ	マルハナアブ	
ナナホシテントウムシ	シオカラトンボ		
ムギワラトンボ	カミキリムシ	ゲンジホ	

タル


ハイケホテル

テントウムシ

四 年

モンシロチヨウ	クワアゲハ	アオスジア	
ゲハ	イガ	ミノガ	ヤマユガ
クスサン(スカシダワラ)		ウスタビガ	ク
ワエダシヤク	ミツバ子	オオハナアブ	
エンマコオロギ	ミツカドコオロギ		ヤニ
サシガメ	ゴミムシ	ハサミムシ	カ
フトムシ	コガネムシ	オオスカシバ	
スズメガ(モモスズメ)		タマムシ	アオク
サカメムシ	アブラゼミ	クマゼミ	ニ
イニイゼミ	ヒグラシ	ウスバカゲロウ	
ウシアブ	クワガタムシ	ヤマユガ	
アシナガバネ	ナナホシテントウムシ		テ
ントウムシダマシ	ギンヤンマ	シオカラ	
トンボ	ジガバネ	センチコガネ	ウ
リハムシ	カナブン	シロスジカミキリ	
ミズスマシ	アメンボウ	マツモムシ	
アガメ	ゲンゴロウ	タイコウ子	ミズ
カマキリ	ヤゴ	ヨトウガ	オトシブ
ミ	コメツキムシ	コクゾウ	ナナフ
シムシ	トウゴウヤスカ	ハネカクシ	
ウスタビガ	クサカゲロウ	イナゴ	
アブラムシ	ウンカ	ズイムシ	ヨト




ウムシ            カツオスシムシ            クサガメムシ  
 モンシ  チョウの一生            カイコの一生            卵  
 から蝶まで            青虫の観察            展翅法            針の  
 さじ方            がむじの幼虫            すずめがのさなぎ

五 年

ミツバチ            アリ            アブラムシの共生寄生  
 マツアイムシ            トノサマバツタ            アオスジ  
 アゲハ            クワトンボ            ズイムシガ(ニカメ  
 イガ)            ナナホシテントウムシ            ベヅリア  
 テントウムシ            ジガバチ            しゃくとり虫  
 カメムシ            ルビーカイガラムシ            マツノキ  
 クイムシ            マツケムシ            マツキホンゾウ  
 イガ            モウセンガ            シミ            ホタル  
 ハナムグリ            アフフキムシ            カミキリムシ  
 タガメ            アリジゴク            ヤドリバチ            カ  
 マキリ            ハリガネムシ

六 年

カ    セミ    チョウ    バツタの  益            ゲンゴロウ  
 カマキリ            アリ            シャフトリムシ            トン  
 ボ            バツタ            はい            ノミ            シラミ  
 イエカ            ハマダラカ            蠅の足            アメリ  
 カシロヒトリ

二種の教科書をごつとみても以上のものがでてくる。  
 これらの昆虫教材を、その目的をはずすことなく指導

するには やはり教授資料と教師の研究であろう。

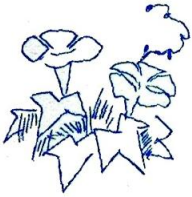
小学校の教材としての昆虫は、特別なものさの  
きいてはほとんど身近かあるものばかりである。平  
常心掛けて昆虫の生態を研究し 乾燥標本に或りは又  
液浸標本に作り 実物実現象の理科教育をおしすすめ  
ていきたい。 了

(川内昆虫同好会員 亀山小)

□□□

◇

□□□



## 蝶の生態

蝶の活動は (1)繁殖の為の活動 (2)求食 に大別で  
き、この外棲息場所の占有性から来る集団的飛翔活動  
があるとされている。一般に活動は陽性と陰性に分れ

▽陽性～午前10時ごろから、午後2時前後に活動

▽陰性～日暮や月かげ、曇天時に活動。

▽その他～雨後の日照と産卵活動は上の二つにあて  
はまらない時が多い。

又雄は雌に比べて活動的で雌はあまり活動せず、食草  
の周辺に静止する事が多い。又シジミチョウの中には  
午前早くか午後おそくしか活動しなれものもある。

蝶の一生は簡単に述べると

食草の探索→産卵→幼虫→蛹化→(休眠越冬)

→成虫という事になる。 (了)



新 竹 佐

去る9月8日おこなわれた川内商談所ホールでの昆虫展授賞式で、川内校1年の神もり子さんが俵の3倍近くもある捕虫棒と賞品賞状を小さな両手にもって自席へ戻って行くいじらしい姿を見て、私はあやふくこぼれようとする涙をこらえた。すると40度近い高熱をおかして審査に当られた角園氏や、夜おそくまで展示資料を清書しておられた永田氏や、山の中で汗だくになりながら学童たちの安全誘動に当っておられた有村氏らの顔がこんどは私の胸をひどくしめつけはじめた。予想以上に盛会裏に終わった初の昆虫展への長びと安堵が私を必要以上に感傷的にしていたのかも知れない。

出品点数約200、頭数にするとざっと一万という数は、私たちの当初の不安や予想を完全に吹き飛ばしてしまった。そしてこれに動員された参観者の数も、この催しが異常な成功をおさめたことを雄弁に物語ってくれた。加えて県昆虫同好会の肥後氏の御好意で、



串本野市からの参加があったことは、今後川内昆虫展から、北薩昆虫展へ発展する希望を大きくふくらませるものであった。

市長賞を得た 北甲坂口君や可愛小ち尋春田君の標本は、そのたくまじり努力と精進のみごとな結果といえるだろう。この外入賞した小中学生の作品も、第一回の展覧会であることからみると、ますます及第の成績をあげていき、参加会員全部の作品も同じ意味で、学童達の真剣な精進と担当教師各位のたゆまぬ指導の成果として高く評価されてよいだろう。

しかし特に気づいた点をあげてみると、

- ① ラベルのついていないのがかなりあった。
- ② 贈与を受けた標本はその旨明示されるべきである。
- ③ 科別 種別 季節型別の展示ということは、全体的におこなわれていなかった。
- ④ 蝶の展翅 甲虫トンボなどの標本製作方法は、今後、特に指導する必要がある。
- ⑤ 珍稀種は別として、普通種の標本は完全なものを出品すること。
- ⑥ クモ、ムカデなど昆虫でないものの出品があったが、今後指導が必要である。
- ⑦ 蝶の出品が圧倒的に多かったが、他の昆虫への関心もたかめる必要がある。
- ⑧ 成虫の採集標本化だけでなく、生態標本の製作に

も当らせる必要がある。

などが指摘され 今後同好会幹部や学校教師として  
努力すべき点が明らかにされている。

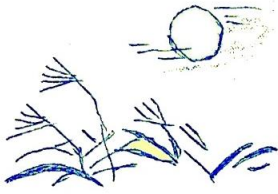
いずれにしても今度の昆虫展は予想以上の成功をお  
さめたり、この成功は同時に次期展への希望を大きく  
はらんでいる。しかしここで気をゆるめると龍頭蛇尾  
におわらせる危険をも生みだすだろう。その意味でも  
深く自戒している。次期展への出品は第1回展の終了  
した本年9月10日以降の採集品と限定されるであろう  
から、この意味でもう次の準備にどりかからなければ  
ならない訳である。又展覧会のための活動ということ  
は極力さけ、あくまでも理学への精進と貢献への限り  
ない前進の一步一步でありたい。

終りに 今回の展覧会に当り望外の御協力をいただ  
いた 川内市 同市会 市教委 同理科教育協議会  
川内すみれ服装学院 田中理科教材店 科学教材光明  
堂 及び 会場提供賞品贈与その他種々高配をいた  
だいた富士屋デパートに対し深く感謝申し上げる次第  
である。

(筆者は 川内昆虫同好会顧問

毎日新聞社川内通信部主任 )





雑

記

おれおれ

親カニが子カニに向つて、なぜお前はまっすぐ歩かないのかと云った。子カニは親カニに向つて、ではまっすぐ歩いませうと頼んだ。よしと親カニは歩いませうと頼んだが、やはり横歩きしか出来なかった。

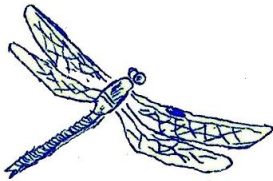
私がまだ十四歳の頃同じ部落に当時宮崎県立高等農林学校に在学しておられた平原氏と、昭和八年の夏休みに採集用具をもつて冠岳に採集につれて行ってもらったことがありました。その頃はまだ何も考えることもなく一緒に採集しただけだったが、でも何か知らないが子供なりに自然に対して面白味を感じたことを思い出します。今回の同好会の行事を色々考えてみますと、一層自然に対する親近感を覚えた。暑中最中に紫尾に高城にと山野を乱歩し下らも自分の昔の姿が想起され、やはり此処にも好きなことは誰でもが暑さを忘れ苦勞を苦と思わなれどつとめその機会に恵まれようとする姿が見られ、この姿こそ美しいものであり、これが自然を知り理解する壺いであると強く感じさせられた。誠に日浅くしてかくも成長するものかと驚かざるを得なかった。我々が「知る」と「知らない」事の境界は実に一点の近きにあると思うが、これを



また知ることはきわめて難かしいものだと思う。路傍に生きる雑草や山肌に出ている岩石でも実に深みがあり、味があり、美しさがあるものである。どんな物でも宝である。かね日頃不必要とされるものでもより価値あるものとしていく事こそ今後私たちに与えられた大きな課題であると思います。

切角生まれたこの集いを軟らかく実実な奇みのできるものにするよう同好の士と共に努力したいものです。

(川内市昆虫同好会員 可愛小)



## トンボ 採集目録

北中学校三年生 寺田 順光

今夏 私はトンボを中心に採集を続けてきました。採集したものは7種 不明なものでその目録は次の通りです。(いづれも1957年)

### (イトトンボ科)

キイトトンボ  
8.11 ツ内

クロイトトンボ  
8.17 ツ内

オオアオイトトンボ  
8.22 ツ内

トゲオイトトンボ  
8.8 紫尾山

モウイトトンボ  
8.11 ツ内

モノサシイトトンボ  
8.15 ツ内

### (カワトンボ科)

ハグロトンボ  
8.24 ツ内

カワトンボ  
8.9 紫尾山

〔ムカシトンボ科〕

ムカシトンボ 8.8 紫尾山

〔サナエトンボ科〕

ウチワヤンマ 8.2 ツ内

〔トンボ科〕

シオカラトンボ  
8.29 ツ内

コフキトンボ  
8.27 ツ内

ハッチョウトンボ  
8.28 ツ内

ハラビロトンボ  
8.1 ツ内

コシアキトンボ  
8.27 ツ内

オオシオカラトンボ  
8.26 ツ内

シヨウジヨウトンボ  
8.5 ツ内

ウスバキトンボ  
8.16 ツ内

マダラナニハトンボ  
8.25 ツ内

ミヤマアカネ  
8.9 紫尾山

〔オニヤンマ科〕

オニヤンマ  
8.8 紫尾山

〔ヤンマ科〕

ギンヤンマ 8.11 ツ内

カトリヤンマ 8.10 紫尾山

〔カゲロウ科〕

ミドリヒメカゲロウ  
8.2 ツ内

ゴウスバカゲロウ  
8.21 ツ内

ウスバカゲロウ  
8.22 ツ内

カスイウスバカゲロウ  
8.22 串木野

ゴマダラウスバカゲロウ  
8.22 串木野

ヨツボシフサカゲロウ  
8.21 ツ内

〔ヘビトンボ科〕

ヘビトンボ 8.9 紫尾山

〔ツノトンボ科〕

オオツノトンボ  
8.30 長島

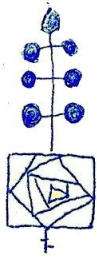
ツノトンボ  
8.30 長島

〔トンボ科追加〕

コノシメトンボ  
8.7 ツ内

チョウトンボ  
8.7 ツ内

以上



## 川内昆虫同好会の歩み

本年五月結成され、市内小中学生、教員及び一般同好者をメンバーにも回にわたり採集会を開き、延千名の採集隊員が出動した。これにより今まで不明だった川内市及びその周辺の蝶相は、ようやくはっきりし、郷土に対する科学的鮮明に大きな役わりを果たすと共に、科学教育振興の上にも一ツの力となりつゝある。今年は主として蝶の研究に力がそそがれたため第一回展覧会も蝶が主体となったが、今後は対象も拡大し活動を充実してゆきたい。

### ◆活動日記 (抄)

(1) 5月19日 (日)

希望者一同 亀山校に午前一時に会し、午後一時まで可愛山陵一帯に於て蝶の採集。昼食後 発会式挙行(役員名後記) その後本日採集した蝶の名前つけ及び展翅の仕方についでの実地指導。

特に印象に残るのはアサギマダラとミカドアゲハを捕えたこと。これで大体アサキマダラが可愛山陵一帯で越冬する?ことを確認した。

(2) 6月9日 (日)

第二回採集会 於清水丘一帯 参加者60名

午前9時から午後1時まで採集



昼食後川内校に於て鱗粉転写についで佐竹顧問から実地指導 了4種類の蝶を採集。

ウラギンシジミが珍らしい。

(3) 6月23日 (日)

第三回採集会 於市内久見崎一带 参加者40名  
午前9時から午後1時迄採集 ジャコウアゲハは  
饒産しており セセリチョウ科は見られなかった。

21種類

(4) 7月7日 (日)

第四回採集会 於可雲山陵一带 参加者70名  
午前9時から午後1時迄採集。昼食後北中に於て標  
本の整理についで実地指導(角園)。尚当日は、  
県同好会幹部 肥後俊一氏も来会。

夏休み中の採集日程を決定す。

(5) 7月14日 (日)

第五回採集会 於紫尾山 川内市教委のトヨペツ  
トを借りて 幹部5名 北中生2名参加 更に田  
代教育長も同行いただき感謝する次第。インガキ  
チョウ、テングチョウ等珍種を採集す。

(6) 7月24日 (日)

第六回採集会 於高城村麓附近 参加者60名

午前9時から午後1時迄採集

(7) 8月4日 (日) 冠嶽

(8) 8月18日 (日) 藤川

}の7、8回採集会は指導者の都合

で中止し 各学校独自で採集会をひらいた。

※8月2・3の両日 佐竹・永田両氏は霧島に一泊の採集旅行を画て クモガタヒヨウモン ジャノメチヨウの外セセリチヨウ科数種を採取。

※北中生25名は8月8～10日近二泊三日の採集旅行を計画し泊野小をその拠点として実施 キリシマミドリシジミ等45種類を採集した。

※8月25日 名前をつける会を 亀山小にてひらく。同日展覧会の諸細目計画分担決定 実践にうつす。

※9月5日 午後 展覧会出品の標本搬入 (富士屋) 同日審査。(同好会幹部 藤安道岡氏 肥後氏)

※9月6・7・8・9日 第一回川内昆虫展覧会開催。於富士屋デパート。

8日は授賞式 於高王会舘所。

### ◎ 授 賞 者

市長賞 北中 坂口邦彦 可小 春田 直

市議会長賞 " 有馬純昭 電小 坂垣 治

入 賞 " 坂元良弘 可小 中宅間三夫

" 中宅間明秀 川小 米次正雄

" 上川清秀 川小 神もり子

" 菊谷義道 亀小 山口健一

努力賞 北中 西園茶、寺田順光、高江中 須賀紘三

西中 松尾秀明、川小 野平誠、昆島孝行、

隈小 神山法慈、亀小 山元章生 可小 園

田千秋 西小 吉永悦男。特別参加賞 串木野小  
肥後俊隆。

※9月15日 川内昆虫同好会機関誌「すみながし」  
第一号創刊する。

## 紫尾山昆虫採集行

北中学校二年 坂口邦彦

八月八日 僕達北中生物研究班二十余名は、二人の先生と紫尾山に向った。その日はあまり上天気とは云えなかったが次の九日は朝から上天気だった。僕達は紫尾山に二組に分れて出発した。僕は永田先生の率る永田班であった。道は林道でわりに歩きやすかった。山の入口までの途中は右に紫尾山系の山、左は谷川でめぼしい得物はなかったが丁度三合目ごろに来た時、永田先生が急に立ち止まって、かしの木をじっとみていたので「先生、何がいたの」と聞くと「おい、じやまをするなよ」と竿を伸して さっと横にふった。何か黒い物が網の中でばたばたあばれている。僕達は一せいに何だろうと思いをながらみしてみた。それはスミナガシだった。それから六合目位まで無言のうちに進んだ。そして角園先生達の班と一緒にになった。そこから急ににぎやかになった。いやそれよりもやかましくなっ



たどった方がいい位だ。いくらか進んだころ有馬君が「やあウラギンだ、ウラギンシジミが死んでるよ」と云うのでとってみてみると、外からは確かにウラギンシジミに見えた。でも「ちよっと変だな」と思って手に取ってよく見ると、おおなんと予感はずれずキリシマミドリシジミのもだった。この前の七月紫尾山で早を採集していたのでうれしくうれしくてあわてて三角紙に入れた。

紫尾山入口に来たからの道は急で樹草がおいしげっていた。しばらくたって「おーい、道がなくなったわ」と云う声が聞こえたので急いで行ってみると、本当にそこら一面に水が倒れていて道がわからなくなっていた。でも「少し歩けば道があるだろうよ」と角園先生がおっしゃったので少し歩いて松林に来た時にはますます草は繁り木は倒れ全然道はわからなくなっていた。その時「アサギマダラだ、アサギマダラだ」と叫ぶ声がして有馬君がすばやくとって三角紙に入れたのを見せた。しばらくすると又向う側で「アサギマダラを取った」と云う坂元君の声、それに続いて5～6人の「アサギマダラをとった」と云う声が聞いた。僕は一匹もとれず「ちえ、やんなっちゃうな」とついしぶい顔をした。後にいた永田先生も同じような顔をしていた。それからしばらくは散らばって道さがし兼アサギマダラとりだった。やっヒ寺田君が道らしいものをみつけ

たので、そこを進んで行った。中腹のあたりも同じよ  
うな道らしい道であったのでポケットにあったのでポ  
ケットにあった花なたを出して小枝をはらっていたら  
永田先生が「おい 迷った時の目印になるからキズを  
つけておけよ」といわれた。僕もそうだと思っ  
てキズをつけて歩いた。大分上に登ったと思  
った時先頭の角田先生がピタリと止ま  
りゃがみこんで文をいじりはじめた。僕が「先生どうしたの」と聞くと、「どうも  
完全に迷った上に イノシシの足跡を歩いているらし  
い。」とおっしゃった。とたんに僕は背中が寒くなるの  
を感じた。そしてまん中頃にいた永田先生の横にひっ  
ついて歩いた。それから後 頂上に出るまではどんな  
チヨウが出来てもイノシシの足跡が気になって追っ  
て行く気にならず、自分の前に来たアサギマダラを一匹取  
っただけで、とうとう何もとれなかった。そして「お  
ーい 頂上だ」という声に急に元気が出てこわさも忘  
れて走った。上ってみると 地上の苑におりているギ  
アゲハが目についた。さっと網をおろしたが、それよ  
りも一秒ほど早く坂元君の網がギアゲハを捕えていた。  
とたんに「アシムン」となきたくなった。でもカラス  
アゲハがいたので元気を出して「ヤア」とかけ声と共に  
網をふったが網にははいらずどこか体の一部に当た  
たとみえてヒラヒラとおちたのであわてて網をかぶせ  
た。これで少しは気持ちがおさまった。その時目前を真

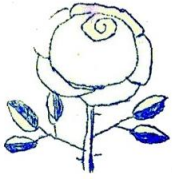
黄々蝶が通った。とたんにキ「アゲハだ」と叫びあわて  
く網をふったがもうおそかった。それから15分間位  
昼食時間が設けられたが、飯はたべずにキアゲハを待  
った。そのかきがあつてかボロボロになったのをやっ  
と一匹採集した時のうれしさ、これで又一種ふえたぞ  
と思ったその時、目の前にみどりと金色に光りながら  
キラキラとじている蝶が目に入った。「あ、キリシマ  
ミドリシジミだ」と思ひながらキアゲハほしさに  
急いで三角紙を入れるすきにとうとうキリシマミドリ  
には逃げられてしまった。そこから少し下の紫尾神社  
に向つたのだつたが又もや道に迷つて道さがしの時  
有馬君が「坂口君 これは何だね？」といつて羽のボロ  
ボロになつたミドリシジミ類の早らしいものをもつて  
来たがはっきりわからないので「僕から佐竹さんにき  
いてみるよ」といつて預つた。それから約半時間やっ  
と紫尾神社にたどりついた。その時  
有馬君が「しまつた。先生 頂上に道具をおいてきたのでとつて来ませう  
といふので僕も西村君と一緒についでつた。その時  
僕は頂上でキアゲハの♂の完全なものを採集した。そ  
れから又帰り道も行きと同じようなことで、行きにつ  
けたキズが大いに役立ちやつと林道までおりてこられ  
た。そして行きにキリシマミドリシジミを採集したと  
ころで、キリシマミドリシジミの♂が金色やみどりに  
輝きながらイチモンジチヨウを5・6匹おいかけている



のをみつけた。「あーあ あのとんでいるのが一匹ほ  
しいものだなあ」考えているところに ヒューとおり  
て来たので あわてて網をめちゃめちゃにぶったがわ  
ずか1mm位の差でにげられた。がっかりして重い足  
をひきずりながらおりにいくと、急に、坂元君や有馬  
君が「あー あれは何だ」と叫んだのであわててみて  
みるとアサギマダラ位の黒い、両端に白線の通った蝶  
がとび出して ガケの上の木にルリタテハのようなか  
っこうで止った。僕はすぐ「オオイネモンジではない  
かなあ」と思ったので 一生けんめい石を投げてみた  
がとばないのでとうとうあきらめて下山した。途中で  
クモガタヒヨウモンとアオバセセリをとって学校に帰  
りついた時はへとへとだった。泊野校につりてからキ  
リシマミドリシジミのとんで来たことを角園先生に話  
すと「えっ どこにとんでいたか。なぜもっと早く教  
えなかつたんだ。」とくやしがっておられた。その晩  
例のボロボロの蝶を圖かんでみてみたが遂にわからな  
くなって床についた。

「あーあ あしたで楽しい紫尾山の採集もおわりか  
」と考えながら、いつのまにか ぐっすりねむりこん  
でしまった。 了





## 編集後記

川内昆虫同好会機関誌「すみながし」創刊第一号を、お手許にお届けいたします。

◇秋の夜半は蟋蟀か地虫かの声にいよいよ深くなって行きます。一日でも早くお届け致したいと云う願いで六曜ガリ版と取組みました。出来上りや外装は非常に悪筆でお粗末などのになってしまいました。〜 此れと貧乏のせいです。できたらタイフ印刷かスリント屋にでもたのみたいと思ったのですが、お墨がなくて〜〜〜しかし盛られた内容はそれぞれ各位の努力によって読み価値のあるものばかりですので この分でご勘弁下さい。

◇来年は〜と云うと鬼がわらうかも知れませんが〜とっと同好の士に集ってとらって研究の度を深めていきたいものです。

◇おい君、君はアオスジアゲハだぞとか 彼はどうとアサギマダラの性格でねとかよく口にのぼるようです。牛糞にあつまるとのや陰気なところだけ

にける虫にならな  
いようにしたいと  
のです。 永田記

編 集 後 記	昭和32年9月15日発行	非売品
	昭和三十二年九月十五日発行	永田昆虫同好会
川内市	川内町	亀山小学校内

